

# 「男性学の視点から 誰もが生きやすい 社会を考える」

6月23～29日の男女共同参画週間に合わせて熊本市と熊本県弁護士会は例年、記念講演会を開催。今年度は、大妻女子大学人間関係学部准教授の田中俊之さんの講演を、6月23日から申込者のみに配信しました。男性が男性であるがゆえに抱えている課題をもとに、私たちがこれから目指したい、誰もが生きやすい社会のあり方についてお話しいただきました。

たなか としゆき  
田中 俊之さん

1975年、東京都生まれ。博士(社会学)。大妻女子大学人間関係学部准教授。主な研究分野は男性学。「日本では“男”と“働く”ことの結びつきがあまりにも強すぎる」と警鐘を鳴らす。著書『男性学の新展開』青弓社、『男がづらいよー絶望の時代の希望の男性学』KADOKAWA、『〈40男〉はなぜ嫌われるか』イースト新書など。



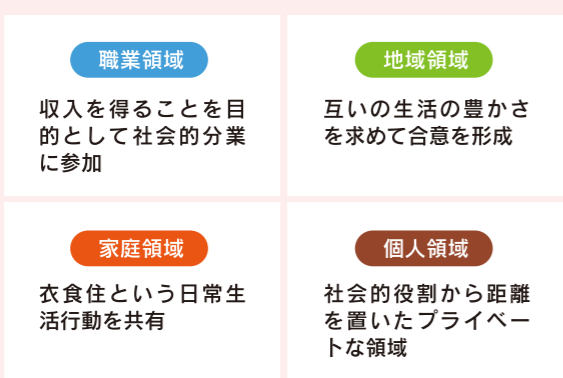
令和4年度「男女共同参画週間」キャッチフレーズ

『あなたらしい』を築く、『あなたらしい』社会へ

**男性のイメージが与える影響に気付いて**  
「男性学とは、男性が男性であるがゆえに抱える悩みや葛藤を対象にした学問です。男性の抱える一番の問題は働き過ぎ。男性学が登場した1980年代後半からずっと問題視されているのに、改善されないのはなぜでしょうか。その理由の一つに日本の男女間における賃金格差があります。「男性が働いた方がお金がたくさん稼げて得」と認識されているのです。職場に女性と男性の待遇に差があることで、かえって男性の働き過ぎが止められなくなっているといえます。また、女性より男性の方が自殺死亡率が高いというデータがあります。男性は辛くても誰かに相談するなんて男らしくないと一人で抱え込んでしまいがちなことが関係しているでしょう。世間が持つ「男らしさ」が男性の言動や人生に大きな影響を与えるのです。こうした、男らしさによる影響に男性自身が気付くことで、女性が社会で置かれている状況を想像できるようになり、ひいては男性が男女共同参画を当事者問題として考えるための第一歩になります。

**「社会人」とは何か**  
「社会人」という日本語は、フルタイムで働く人を連想する言葉ですが、社会は職業の領域だけではありません。

**現代日本人の寛容さに潜む無関心**  
結婚することが当たり前だった1970年代。30年かけ「結婚は個人の自由」という認識が高まり、子育てについても「必ずしも子を持たなくてもいい」と考える人が増えています。



**編集員感想**  
「積極的寛容」と消極的寛容という概念を知り、これまでの考え方が変わりました。「自分には偏見などない」という思いが、実は後者なのではないかと思つて直すことが、実際の行動を決める鍵になると思いました。  
(編集員 池田恵美)

**相手とじっくりと対話しよう**  
日本の男女不平等社会をいきなり平等に変えるのは難しい。しかし大切なのは、「俺を尊敬しろ、お前がかわれ」ではなく、一人一人が「相手を尊敬し、自分も変わろう」という姿勢積極的に寛容を持つことです。長時間話をすると、人は相手の信念や価値観をおかしく思うことが困難になります。人と人がじっくり膝を突き合わせて対話することこそ、互いに認め合う上で最も重要です。またそれができると、誰もが生きやすい社会につながるといえます。

一見、多様性が認められる寛容な社会に変化してきているように感じられますが、実はそうとも言い切れないと思つています。  
前述の考えの中には「自分は結婚して子どもも欲しいが、他人は自由」という無関心さ(消極的寛容)が潜んでいる可能性があるのです。誰もが生きやすい社会と個人の無関心は真逆の方向性です。無関心こそが最大の社会問題ともいえます。

## はあもにい 施設 ご利用案内

**開館時間**  
ホール・研修室など貸室 9:00～21:30  
施設予約受付・情報資料室 9:00～19:00

**休館日**  
第2・4月曜日(ただし祝日の場合は翌日)、  
12月29日～翌年1月3日

### 無線LANを完備した部屋

#### 研修室 AとB、2室連結しての利用も可

研修室は、A・B・Cの3室あり、定員各36人。小規模のセミナーや会議利用に適しています。AとBには無線LANを設置。間仕切り壁を外して、ひと続き(72席)にすると、ワイヤレスマイク(1本無料)、有線マイク(2本まで。有料)が使用でき、講演会なども実施できます。



料金	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)	夜間 (18:00～21:30)
	2,000円	2,700円	3,200円

#### 会議室 本格的な会議、セミナー利用に

円卓のテーブル(備え付け)、マイク付きの司会台を備えた本格的な会議室です。ワイヤレスマイク(1本無料)、有線マイク(5本まで。有料)を追加することで、より広い用途でご利用いただけます。収容人数50人(円卓着席数26、補助席数24)。



料金	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)	夜間 (18:00～21:30)
	3,700円	4,900円	5,800円

※表記した使用料金は基本料金です。入場料を徴収するなど商業活動を目的とした使用の場合は、加算対象になります。

## テーマ ジェンダーの 視点で見る表現

01

**失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック**  
新聞労連ジェンダー表現ガイドブック編集チーム / 著  
小学館 / 発行

### 現役記者・ジャーナリストの反省から「気付き」を得る

「男女で分ける必要、ありますか」「無意識に排除していませんか」「美しすぎる〇〇がだめな理由」…この本では、メディアで問題となった過去の事例を基に、ジェンダーに関する表現について考えます。メディア業界の意思決定層に女性が少ないという構造的な課題にも着目。大切なのは、なぜこの表現がだめなのか、背後に潜む構造や問題を知ること。具体事例をもとに、理解を深めながら新しい表現を模索するきっかけになりそうです。  
※紹介した本は、はあもにい1階情報資料室で貸し出しできます。

02

**炎上しない企業情報発信**  
ジェンダーはビジネスの新教養である  
炎上しない企業情報発信  
治部れんげ / 著  
日本経済新聞出版社 / 発行

### 「悪気はなかった…」ではもう済まされない

「わたし作る人、ボク食べる人」—1970年代以降、企業広告が問題視されたりSNSなどで炎上した事例に共通する組織の課題がある、と著者。一方で、成功をおさめているディズニー・プリンセス映画の好事例について紹介。今の時代に必要な情報発信、企画の立て方、対応の仕方などをジェンダーの観点から学べます。誰もが発信する時代だからこそ、経営者や広報担当者だけにとどまらず、一般ビジネス教養として読んでおきたい一冊です。